

# 生理学女性研究者の会

NEWSLETTER

No. 21

July 2005

目

次

- WPJ 10周年を迎えて (WPJ代表: 菅原美子)** - 2  
生理学女性研究者の会 (WPJ) は設立されて今年でちょうど10年が過ぎました。中には見えなくとも、外から見るとWPJの投げかけた波紋は決して小さくはなかったようです。
- グループディナーの感想 (井村泰子&多久和典子)** - 2  
仙台での第82回日本生理学会大会中に第11回WPJグループディナーが開催されました。初めて参加された人や常連の人にとってこの会とは?
- 第3回WPJワークショップ印象記 (吉村由美子)** - 3  
WPJ設立10周年を記念して、仙台での生理学会大会に合わせ、WPJ主催の第3回ワークショップが開催されました。男性の子育て体験談や法律がご専門の女性研究者の話など、普段聞けない話も盛りだくさん。参加できなかった方はNL特集号をお楽しみに。
- 男女共同参画推進委員会シンポジウム**  
-男女共同参画の過去、現在、そして未来に向けて-  
(持田澄子&水村和枝) - 4  
生理学会大会3日目に日本生理学会男女共同参画推進委員会主催のシンポジウムが開催されました。私たち女性研究者の大先輩はいかにして道を切り開いてきたのか。また、“女性研究者を女房に持つ男性研究者”から見た女性研究者が直面する問題とは。男女共同参画は女性がんばるだけでは成り立たず、すばらしい男性がパートナーとして必要であることを実感しました。
- アドバイザー制運用開始 (小田-望月紀子)** - 5  
生理学会では男女共同参画推進委員会の働きにより今年の2月にアドバイザー制が導入されました。相談のある方はどうぞご利用下さい。
- 私の研究遍歴 (河南有希子)** - 5  
獣医学科に入学・卒業後、神経免疫学の分野での研究を続けてこられた河南さんの研究遍歴です。カナダ留学中の研究テーマ「リンパ球と神経のinteraction」のお話も読み応えがあります。
- アンケート「男性研究者からみた女性研究者」II** - 6  
前号に引き続き、男性研究者に対して行ったアンケートの回答を掲載します。女性研究者への「苦言・エール」の自由回答欄では、文字通り『苦言』あり『エール』あり。どちらの場合も、「よーし、がんばるぞ。」という気持ちにさせてくれます。
- 生理学会大会保育室を利用して (青木貴子)** - 11  
青木さんは2003年から連続3回「生理学会大会保育室」を利用されました。青木さんから見た「大会保育室」の良さとは。また「大会保育室」に望むものとは。
- 本の紹介 (奥谷文乃)** - 11  
WPJ会員である田中富久子さんが、好評を博した前作「女の脳・男の脳」に引き続き、「脳の進化学」という本を出版されました。「現代人の脳への進化」を導入に、古脳—新脳の順に機能の男女差をわかりやすく解説しています。
- 事務局日誌・会計報告・会員消息** - 12  
**編集後記 (藤山理恵)** - 14